

待降節第二主日

2013.12.8

マタイ 3・1-12

今日待降節第二主日の福音は、私たちが洗礼者ヨハネのもとへと誘います。ヨルダン川のほとりのユダの荒れ野に現れた洗礼者ヨハネのもとに押し寄せて来た人々がそうしたように、私たちも今日の福音を通して響く、洗礼者ヨハネのメッセージに耳を傾けたいと思います。「悔い改めよ。天の国は近づいた。」これが、今日の福音を通して、私たちの上にも響いた洗礼者のメッセージです。けれども、今日のミサの中で私たちの耳に響いた洗礼者ヨハネのこのことばは、洗礼者ヨハネのもとに押し寄せた人々が聴いたのとは全く異なる響きをもっていることに気付かなければなりません。ヨハネが宣べ伝えた天の国は、今年も私たちがその誕生を祝おうとしているイエス・キリストによってすでに私たちにもたらされているのです。

「悔い改めよ。天の国は近づいた」という今日のミサの中に響く洗礼者ヨハネのことばは、私たちが信じているイエス・キリストがこの世界にもたらした天の国を指し示すことばです。それゆえ、「悔い改めよ。天の国は近づいた」という今日の福音に響く洗礼者ヨハネのことばは、私たちにとって、イエス・キリストによってもたらされている天の国に向かっての回心を促すことばです。ヨルダン川で洗礼者ヨハネが人々に授けた洗礼、そして、イエスご自身がそのヨハネからお受けになった洗礼は、私たちがこの身に受けた洗礼と無関係ではありません。私たちは、洗礼者ヨハネが「わたしの後から来られる方」と指し示し、「わたしはその方の履物をお脱がせする値打ちもない」と証したイエス・キリスト信じ、イエス・キリストによってもたらされた天の国に生きるために洗礼を受けたのです。「悔い改めよ。天の国は近づいた」と宣べ伝え、ヨルダン川で人々に洗礼を授けた、今日のミサの中に響く洗礼者ヨハネのことばは、私たちに、私たちが受けた洗礼に心を向けるように促しているのです。

荒れ野に響く洗礼者ヨハネの声を聴いて、ヨハネが宣べ伝えた悔い改めの洗礼を受けようとしていた人々の中にイエスはその姿を現します。そのようにして、イエス・キリストはこの地上に生きる私たちの中に来てくださったのです。洗礼者ヨハネがその到来を告げていた天の国を求めて洗礼を受けていた人々に交じって自らも洗礼を受けることによって、イエス・キリストは洗礼者ヨハネの洗礼が目指していた天の国をこの地上にもたらしてくださったのです。

今日の福音の最後には、イエス・キリストの到来を告げる洗礼者ヨハネのこ

とばが響いています。「わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに洗礼を授けているが、わたしの後から来られる方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その方の履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」荒れ野に響いた洗礼者ヨハネの声は、私たちをヨハネが指し示した彼の後から来られるお方、イエス・キリストのもとに導くのです。マタイ福音書を開いて今日の福音に続く箇所を読むと、そこには、イエスがヨルダン川で、人々に交じって洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたときのことが語られています。

「イエスは洗礼を受けるとすぐに水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降ってくるのをご覧になった。そのとき、『これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者』という声が、天から聞こえた。」このようにして、洗礼者ヨハネが人々に伝えていた天の国は、イエスの上に開かれ、そのイエス・キリストを通して、この地上に生きる私たちの上にも開かれたのです。父なる神の御心に従って、イエスがヨルダン川で洗礼をお受けになられたことによって、この地上に真の洗礼がもたらされたのです。イエス・キリストを信じて洗礼を受けた私たちの上にも、天が開かれ、聖霊が注がれ、イエスの上に響いた私たちの父である神の御声が響いているのです。こうして、天と地の境を越えて広がる、父である神の御心が行われる天の国が私たちが生きる地上の日々の中にもたらされたのです。

「わたしの後から来られるその方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をおさずけになる」という今日の福音の中に響く洗礼者ヨハネのことばは、ルカ福音書 12 章 49 節からのイエスのみことばと響きあっています。そこでは、イエスご自身次のように宣べておられます。「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火がすでに燃えていたらと、どんなに願っていることか。」ヨルダン川での洗礼から始まるイエスの活動は、この地上に神のいのちである聖霊の火を投ずるための働きであったのです。そしてヨルダン川での洗礼から始まるイエスのその働きは、十字架において完成するのです。「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火がすでに燃えていたらと、どんなに願っていることか」というみことばに続けて、イエスは次のように宣べておられます。「わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう」(ルカ 12・50)。イエスの洗礼はヨルダン川から始まり、十字架の死によって完成するのです。ヨルダン川での洗礼においてイエスの上に響いた父である神の御声が意味していたことは、イエスの十字架において余すところなく私たちに示されています。イエスは十字架のお姿をもって、父なる

神の御心に適う、父なる神の愛する子であることを示されたのです。そのようにして、イエスは十字架の死のお姿をもって、愛するその御子さえも惜しまずに、私たちのためにお与えになる父なる神の愛を私たちにお示しになられたのです。ここにおいて、イエスが父なる神の御心に従ってお受けになった洗礼が完成したのです。神の子であるイエスの上に注がれた神の愛の聖霊の火が、この地上に投げられたのです。その火が私たちの中に燃え広がって行くことが、私たちのためにそのいのちを与え尽くされたイエス・キリストの唯一の願いであったのです。

今年も待降節を迎え、今日の福音に響く洗礼者ヨハネの声に促されて、この地上に生きる私たちに天の国を開くために来てくださったイエス・キリストに新たな回心をもって、心に向けてゆきたいと思います。イエスによってこの地上にもたらされた神の愛の息吹である聖霊の火によって私たちを覆っている殻殻がすべて燃やし尽くされ、ここに集う私たち一人ひとりが、神の御心に適う一粒の麦となって、この祭壇に供えられるイエスのいのちのパンの一部となることを祈り求めたいと思います。そのようにして、私たちの救いのために私たちのもとに来てくださったイエス・キリストに結ばれて、天の国の倉に納められる実りを結ぶことができるよう祈り求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高